

発行 ジャカルタ・ポスト(<http://www.thejakartapost.com>)

ミャンマーの刑事免責に挑め(Challenge impunity in Myanmar)

ジャカルタ・ポスト | 2010 年 7 月 6 日(火) 午後 4 時 7 分 | 意見

横田 洋三

先月、ミャンマーの人権に関する国連特別報告者のトーマス・オジア・クインタナが、国際連合に対し、ミャンマーの軍事政権が戦争犯罪と人道に対する罪を犯しているかもしれないこと、そして、これらの国際犯罪が調査されるべきだということを伝えた。私は賛成だ。

過去三年間、かつてないほどに、ミャンマーにおける人道危機と人権危機が世界の関心を引いてきた。今、ミャンマーの独裁者タンシュエは、世界が直ぐに忘れてしまうことを望んでいる。彼は、今年の後半、独裁体制に正統性の衣装を着せるための、見せ掛けだけの選挙を計画している。

2007 年 9 月の仏教僧に率いられた勇敢な抗議運動、そして、日本人写真ジャーナリスト長井健二の殺害を含む、政権による衝撃的な弾圧は、この政権の残虐性をこれまで以上にはっきりと露呈した。

8 カ月後、サイクロン・ナルギスがミャンマー国土を襲い、跡に死体と破壊を残した。ミャンマー政権が国際支援活動人員を最初に拒んだことは、その残忍さの証拠となった。

引き続き少数民族地域での民間人に対する軍の攻撃、特に東部ミャンマーにおけるもの、少なくとも 1 人の著名な少数民族指導者を暗殺とほかの者への暗殺未遂、そして、チン州における飢餓を無情に無視していることは、またしてもミャンマー政権の民族浄化の政策を露呈した。

ミャンマー政権が選挙の実施を準備している今年、世界は過去 3 年間の出来事を思い出さなければならない。昨年、「ミャンマーにおける犯罪」と題する報告が、ハーバード法科大学院により発行された。

Patricia Wald 判事(米国)、Ganzorig Gombosuren 閣下(モンゴル)、王室顧問弁護士 Geoffrey Nice 卿(英国)、Richard Goldstone 判事(南アフリカ)や Pedro Nikken 判事(ベネズエラ)など、一部の世界一流の法律家により委託されたこの報告は、ミャンマー政権の人権侵害が戦争犯罪と人道に対する罪に相当するかもしれないこと、及び、これらが国際連合により調査されるべきであるとの結論を出した。元国連特別報告者として、私は賛成する。

私は、自身がミャンマーの人権に関する国連特別報告者であった期間、強制労働、児童兵の徴集、戦争の道具としての拷問および強姦がミャンマーにおいて広範かつ組織的に行われていることの、論争の余地のない証拠を受け取った。その時以来、証拠は強力になっている。タイ-ミャンマー・コンソーシアムの主張では、1996 年以降に 3,500 村もの村々が東部ミャンマーにおいて破壊された。村の住民たちは、人間地雷探知器として使われ、軍のために地雷原を歩いて地雷を片付けることを強制され、その結果、多くの場合に手足を失い、時にはその過程で生命を失っている。

私は、刑務所を訪問し、残酷な形態の拷問についての多くの証言を聞いた。今日、2,100 人以上の政治囚がミャンマーの刑務所にいると見られており、また、ミャンマーの民主化指導者、ノーベル平和賞受賞者のアウンサンスーチーは、自宅軟禁のままだ。彼女は、過去 20 年間のうちの 14 年以上を拘束下で過ごしている。

宗教的な迫害も広く行われている。ミャンマー政権は、非ビルマ族の少数民族と非仏教徒の宗教マイノリティに寛容ではない。圧倒的にキリスト教徒が多いチン族とカチン族に加え、一部がキリスト教徒のカレン族とカレニ族は、教会や十字架像の破壊を含む、差別、制約および迫害を受けている。キリスト教徒たちは、銃で脅迫されて、十字架像を取り壊し、仏教パゴダ（仏塔）をその場所に建てることを強制されている。イスラム教徒ロヒンギャは、似たような迫害を受け、数世代にわたってミャンマーのアラカン州北部に住んでいるにも関わらず、この国での国籍を否定されている。結果として、彼らは、移動や結婚への耐え難い制約を受け、教育や医療をほとんど受けることができない。

国際連合は、これらの犯罪を長年にわたって記録してきた。私の同僚で元報告者のラジソーマー・ラは、1996 年というかなり前から、これらの虐待が「上層部の政策の結果であり、それは政治的・法的な責任を伴う」との結論を出していた。最近の総会決議の一つは、ミャンマー政権に対し、「国際人権法と人道法の侵害行為を止める」ことを要請した。国連は、ミャンマーをジェノサイドの監視リストに加えた。一方で、ジェノサイド危険指数は、ミャンマーを上位 2 つの「非常事態 (red alert)」国の一つとしてスーダンと同位に並べた。

非政府組織らも似たような評価をなした。アムネスティ・インターナショナルは、東部ミャンマーにおける侵害行為を人道に対する罪と表現し、一方、マイノリティ・ライツ・グループは、ミャンマーを少数民族が危機に瀕している上位 5 カ国の内の 1 つに位置づけた。フリーダム・ハウスは、ミャンマーを「最悪中の最悪」と表現している。

ヒューマン・ライツ・ウォッチと国際トランジショナル・ジャスティス・センターは、似たような結論に達している。「選挙」が迫り、人道に対する罪の増加が少数民族の抵抗を終わらせようとするタンシュエの企てで蔓延している中、さらなる命が失われる前に、今こそ協調した国際的な行動を取る時だ。

免責がミャンマーで蔓延しており、これらの犯罪に終止符を打つための措置はとられていない。そのような理由で、我々は、国際連合には現特別報告者の勧告に反応し、そして、戦争犯罪と人道に対する罪を調査して行動計画を立てるために、調査委員会を設置する義務があると考えます。国連安全保障理事会も、ミャンマーの政権に対する全面武器禁輸措置を課すべきである。ミャンマー政権は、長きにわたって、これらの犯罪の罪から逃れることを許されてきた。免責の風潮は、問題にされないままに許されるべきではない。

執筆者は、1992年から1996年までのミャンマーの人権状況に関する特別報告者で、2000-2009年の人権促進及び保護に関する国連小委員会の委員であった。

— JP

Copyright © 2010 The Jakarta Post – PT Bina Media Tenggara. All Rights Reserved.

Source URL:

<http://www.thejakartapost.com/news/2010/07/06/challenge-impunity-myanmar.html>